

令和7年度 第2回 富塚小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年7月4日（金）14時00分～15時10分
- 2 開催場所 富塚小学校 ふれあいルーム
- 3 出席委員 吉原 忍、久保田 智彦、萩原 孝英、マイヤーズ フランシス、
甲斐 進一、平出 裕美子
- 4 欠席委員 鈴木 秀俊、鈴木 佐知、鈴木 敦子
- 5 オブザーバー 柴田 功洋（富塚協働センター）
- 6 学校支援コーディネーター 高橋 麻由美
- 7 学 校 村松 一彦（校長）、古宮 康子（教頭）、池内 伸彰（教務主任）
新田 久美子（CSディレクター）
- 8 傍 聴 者 1人
- 9 会議録作成者 CSディレクター 新田 久美子
- 10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、甲斐委員が本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- （1）学校教育活動の取組について
- （2）学校の抱える課題と改善策・支援策について

12 会議記録

司会の教頭から、委員総数9人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）学校教育活動の取組について

議長の指示により、教務主任からプレゼンテーション資料に基づき今年度これまでの学校教育活動の取組状況について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・新聞などで、水泳の授業を廃止する学校もあるという話を見かけるが、浜松市ではどうか。私は水に親しむことは続けてほしいと思っている。（萩原委員）

→今のところ廃止という話はない。ただし、プールの維持には大変お金がかかるため、今後公の施設やスイミングスクールのプールを借りて授業を行うようになることはあるかもしれない。浜松市ではまだそのような話は出ていないが、他市町ではそういう流れがあると聞いている。（校長）

- ・朝の登校の見守りをしているが、子供たちはみんな元気よく挨拶をしてくれる。運動会の時も非常に元気があると感じた。これは今御説明いただいたような教育活動のあらわれではないかと思う。今後も続けてほしい。（久保田委員）

- ・30分間回泳は今後もずっと続くのか。浜松市のどの学校も続けるのか。（平出委員）
→今のところはそう。しばらくの間はほとんどの学校で30分間回泳を行うと思う。
（校長）
- ・学力調査に今年は理科が入ったという説明があったが、これは何年ぶりか。（吉原会長）
→3年ぶり。3年に1度理科が入ることになっている。（教務主任）
- ・1年生を迎える会は5、6年生が自ら考えてやっているのか。（吉原会長）
→新6年生の実行委員が中心となって自分たちで考えて準備している。進級してすぐなので教員も力を貸すが、基本的には子供たちで準備している。（教務主任）
→自ら考えてやることはなかなかできることではないので、素晴らしい取組だと思った。
（吉原会長）
- ・縦割り活動が充実していてとてもよいと思う。ピア・サポートと縦割り活動は別か。（平出委員）
→別である。（校長）
- ・ピア・サポートとはどんな活動なのか。（平出委員）
→例えば今回は、学級でグループを作ってアイスブレイクというものを行った。これは自己紹介をリレーするなどの活動で、このような活動の回数を重ねてお互いを理解していくことで、トラブルが起きたときにどういう言葉がけをするとよいかを考え、最終的には子供たちが信頼関係の中で問題を解決しながらよりよい生活をしていくことを目指している。（教務主任）
- ・ピア・サポートはどこの学校でもやっているのか。それとも富塚小独自の活動なのか。（平出委員）
→どこの学校でもやっているということはないが、本校独自ではない。昨年度本校の職員がピア・サポートの講師を育てる講座に参加したため、その成果を生かして今回の活動を行った。（校長）
- ・たくさんのボランティアが授業支援に入っているようだが、ボランティアの募集や運営などはうまくいっているのか。（萩原委員）
→今年度からボランティア募集のお便りにQRコードを載せて保護者と自治会の回覧用に配付したところ、初めて自治会から3名の応募があった。人数が足りない時にはパパボラに声をかけて来ていただくなど、少しずつ頼れるところが増えている。順調に運営できていると思う。（学校支援コーディネーター）

（2）学校の抱える課題と改善策・支援策について

議長の指示により、教頭から本校の抱える課題について説明があった。

●ロング昼休みの見守りボランティアについて

教育活動がさらに充実したものになるように、地域に何かお願いしたいことがあるか職員に投げかけたところ、職員から昼休みの子供たちの見守りをお願いできれば、という声があがってきた。

本校は木曜日がロング昼休みとなっており休み時間が５０分ほどある。子供たちはいろいろな場所で活動しており、活動場所が広く職員だけでは目を届かせることが難しい。多くの目で見守ることができれば、けがやめごとを減らせるのではないかと考えている。みなさんから御意見をいただきたい。

委員からは以下の発言があった。

- ・ロング昼休みは毎日あるのか。（萩原委員）
→週１回、木曜日がロング昼休みとなっている。時間は１２時３０分から１３時２０分の５０分間（教頭）
- ・子供たちの活動範囲は体育館も入るのか。（吉原会長）
→体育館は開放していないので入らない。（校長）
- ・地域の方が見守りに来てくれたら、体育館の開放もできるか。（久保田委員）
→できる。（校長）
- ・見守りの目はどのくらいあったらよいのか。（久保田委員）
→多ければ多いほどよいが、グラウンドであれば四隅にはいてほしい。（校長）
→体育館でも４～５人いるとよいのではないか。（久保田委員）
- ・木曜日は、１、２年生は何時下校か。（学校支援コーディネーター）
→１３時２５分下校。（教務主任）
→その学年の保護者は見守りをしてそのあと子供と一緒に帰ることは可能か。（学校支援コーディネーター）
→よいと思う。（校長）
- ・地域の方の見守りで先生の負担が減り、先生の残業が減ることにつながるのであればやる価値があると思う。（吉原会長）
- ・ロング昼休みにボランティアを入れている学校はあるのか。（久保田委員）
→ある。ボランティアの方に遊びの企画をしていただくなどの活動をしている学校もある。（校長）
- ・民生委員が富塚西小で昼休みの見守りを行っている。何かを教えたりするのではなくただ見守るだけという内容。（平出委員）
- ・昼休みに音楽室の楽器を使うことは可能か。（学校支援コーディネーター）
→検討する。（校長）
- ・ボランティアの取りまとめは誰が行うのか。（甲斐委員）
→コミスクの名簿に入ると保険が適用されるということがあるため、コミスクのボランティアに登録してもらうことになると思う。（校長）
- ・ボランティアの内容としては見守りだけと遊びを企画して一緒にやるのとではどちらがよいか。（平出委員）
→今考えているのは見守りのみ。遊びの企画となるとその方の負担になってしまうのではないかと思うため。（校長）

- ・ボランティアの募集の仕方についてひとつ問題がある。募集のお便りを回覧に載せると、回覧が回るのが遅く期日までに回らないことがある。（学校支援コーディネーター）
 - 住民の意識を変える必要がある。協働センターの講座なども行きたいと思っても回ってきたときにはすでに締め切りを過ぎてしまっていることがある。（マイヤーズ委員）
 - 締め切りがあるものはなるべく早めに出してもらうのがよい。回覧を回すのが遅い人はどうしても遅い。（久保田委員）
- ・子供たちが学校にいる時間に地震などの災害が起きた場合、避難や救護はどうすることになっているのか。（マイヤーズ委員）
 - 浜松市全体に「危機管理マニュアル」があり、震度５弱以上は子供たちを学校に留め置くことになっている。救護は養護教諭が担当することになると思う。また担任がクラスの子供たちをみることになる。（校長）

オブザーバーからは以下の発言があった。

縦割り活動やピア・サポートなど人間関係を良好に築く学習をされていることはとてもよいと思った。地域のボランティアの方々を巻き込んで、今後も続けてほしい。

（富塚協働センター 柴田所長）

報告

学校支援コーディネーターより、これまでの活動報告があった。

- ・ボランティア募集は、今年からお便りにQRコードを載せたところ、地域から全く新しい方が３名、祖父母３名、父親７名など全部で４７名の応募があった。これは過去最高の人数。
- ・５年生のソーイングの支援は、クラスによって進度が違うため、ボランティアさんには進みの早いクラスから遅いクラスに変更して入ってもらうなど臨機応変に対応できた。

その他の報告事項

司会から、次回会議は、令和７年１１月２７日（木）１４時００分から富塚小学校会議室で開催する旨の報告があった。